

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	あさひがおか保育園
施設所在地	日野市旭ヶ丘2丁目42-1
自治体名	日野市

1. 活動のテーマ

<テーマ>

運動遊び

<テーマの設定理由>

あさひがおか保育園では広い園庭や公園の散歩を通じて、子どもたちが十分に運動遊びを楽しみ、心身の健やかな発達を促している。猛暑により外遊びが楽しめない期間でも、子どもが体を動かし、自己の身体能力や環境との関わりを探求できる機会を保障するために、活動の幅を広げ、子どもたちの興味関心好奇心をさらに深める

2. 活動スケジュール

2月より不定期に、0歳児～2歳児までクラス毎に活動

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

「自分で動きたい」「挑戦したい」という子どもたちの気持ちを大切に、運動遊びが自由に発展できるよう、ホールなどの広い部屋を活用した。各クラスの運動能力に合わせて、保育士がシステムブロックやバランスミニおやまなど、全身を使って遊べる遊具を配置した。

システムブロックは、転倒時の怪我を防ぐため、滑り止め付きのウレタン素材のものを使用し、周囲にはマットを敷くなど安全面に配慮した。また、活動中は保育者がそばで見守り、必要に応じて手を貸しながら、子どもたちが安心して挑戦できる環境を整えた。

屋外では、三輪車を使った運動遊びを設定した。子どもたちが「走ってみたい」「試してみたい」と思えるよう、子どもたちのアイデアも取り入れながら、カラーコーンや白線を用いてさまざまなコースを作成した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

システムブロックは、山や谷、階段、一本橋などさまざまな形をしており、子どもたちはサーキットのように並べられたブロックに順番に挑戦する。

どのように乗り越えたり渡ったりするかを、保育者の見本をヒントにしながら自分で考え、いろいろな進み方を試しながら進んでいく。

屋外での三輪車遊びでは、子どもたちは様々なコースに挑戦する。コースに変化をつけることで「どうやって進もう?」「速く回れるかな?」と、進むスピードや体の使い方を考えながら進んでいく。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

システムブロックで作られた遊び場を見て、子どもたちは「わー」と期待に満ちた表情を浮かべ、友だちと顔を見合わせて嬉しそうにしたり、手を大きく振って喜んだりする姿が見られた。活動が始まると、自信を持ってどんどん進む子や、慎重にゆっくり進む子など、一人ひとりの姿に合わせた取り組みが見られた。最初は保育者の手を借りていた子も、励ましの言葉や「上手にできてるよ」という声掛けを受けることで自信をつけ、少しずつ一人で進めるようになっていった。

また、何度か挑戦するうちに、後ろ向きで進んだりジャンプをしたりするなど、自分の体の動きやバランスの取り方を工夫しながら、新しい遊び方を楽しむ姿も見られた。

三輪車遊びでは、「ここは難しいね」「速く走り抜きたい!」などと、自ら考えながら意欲的に挑戦する姿が見られた。コース内に転回ポイントや停車ポイントを設けたことで、途中で止まる、再びスタートするといった体の使い方も、遊びを通して自然に身につけていった。また、コース作りの一部を子どもたちと一緒にに行ったことで、より意欲的に活動へ参加し、友だちと協力しながら取り組む姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

活動中の子どもたちは強いワクワク感をもって取り組んでおり、「ワクワクを感じられる環境設定」が意欲や挑戦する気持ちを引き出すうえで重要だと再認識した。

一方で、初めての感触や遊びに戸惑う子もいたが、繰り返しの経験を通して安心して遊べるようになる姿から、「安心して試せる場づくり」の大切さにも気づくことができた。

また、体の使い方や興味には個人差が大きく、うまく体を動かせない子もいることから、様々な遊びや経験を用意し、子どもの興味に寄り添いながら「できる喜び」や「楽しい」という気持ちにつなげていく必要性を感じた。